

## ■□要旨■□

### 1. 塾のプログラムの様子、および講師陣のご紹介

以前の塾生の様子、合同合宿の様態など写真を交えてご紹介いただく。合同合宿時、男性陣は雑魚寝(!?)とのこと。学生時代を思い出す。バックグラウンド、活躍フィールドも様々な豊かな講師陣の顔ぶれに今後のプログラムに期待が高まる。

### 2. 西岡塾の特徴的なプログラム 自己変革計画

9期から今に至るまでずっと続いているという自己変革計画が西岡塾の特徴の一つ。身近な家族を考課者に含み360度評価を実施するところからスタート。過去は変えられないが、未来は変えられる。相手を変えることはできないが、自らを変えることはできる。塾の中で得た気づき、自己変革のヒントは即日実行が有効である。

### 3. 西岡塾の問題意識とは？

一個人が社会を変えることはできない。もちろん西岡塾も社会を変えることはできない。では、何ができるのか？自己変革はできる。自分が変わることで、その余波は周囲へ広がっていく。それは家庭、自身を含む集団の変革へとつながっていく。その波がより大きなものとなり、職場から会社、会社から社会へとじわじわ広がっていく。最初は小さな波でもやがて大きなムーブメントの原動力となりえる。

### 4. なぜ女性リーダー塾なのか？

女性リーダー塾は自己矛盾か？従来の塾と異なるものは何か。あえて女性リーダーに特化する必要があったのか？例年開催される従来の塾の場合、女性参加者は1、2名。女性の社会進出、活躍が叫ばれていても、研修受講者候補としてあがってくるのは男性社員が圧倒的に多いという現実。ならば、女性リーダー塾にすれば、間違いなく女性受講者のみとなる。半ば強制的に女性に学習の場を提供していくことが女性リーダー塾開講の理由。

### 5. 西岡塾での学びの姿勢について

リーダーシップは知識ではなく、人間力、コミュニケーションであると西岡塾長の強い言葉。ただし、様々なタイプのリーダーシップがあり、自分に合う合わないがある。相性の良いものを自分で選び取っていけばよい。もっとも大事なことは塾生同士の化学反応である。塾から提供されるネットワークの活用、講師への積極的な質問など能動的で刺激的な議論の場にしていってほしい。そして、ここで得た貴重な知識を自分だけのものにせず、自分の周囲、職場に伝達していくことで良い影響を与え、自身の学びもさらに深まる。

## ■□今回の学び ひとことでいうと■□

西岡塾の目的。それは“細き流れも大河となる”ということわざに近いと感じた。塾から提供されるネットワークや学びの場をどのように自分の変革に活かしていくかの裁量は塾生自身にある。



■□感想■□卒塾生から聞いていた西岡塾のハードな前評判とは異なり、かなり穏やかな雰囲気の中スタートした第4期女性リーダー塾でした。今後の講義に期待は高まると同時に、これから4か月間、ともに学ぶことになる塾生との対面がとても印象的でした。互いの思いを共有し、よりよい変革ができればと思います。オンラインから対面講義に移行し、リアルにお会いできることを楽しみにしています。